

第1学年 国語科学習指導

日 時 平成21年10月9日(金)5校時

児 童 男6名 女4名 計10名

指導者 伊藤節子

1 単元名 こえにだしてよもう

2 教材名 中核教材「くじらぐも」(光村図書)
補助教材「ぐりとぐらとくるりくら」(福音館書店)

3 単元について

(1) 児童について

1年生はこれまでに、物語を読むという学習は、1学期に「はなのみち」や「大きなかぶ」で行ってきた。どちらも、文章やさし絵をもとに、登場人物の気持ちや行動を想像し劇化するという学習を行い、自分の想像したことを言葉や動作で表すということに意欲的に取り組んだ。音読は、教科書以外にも音読集を使い、言葉遊びや詩の暗唱などにも取り組み、友達同士で練習する姿なども見られる。音読記号については、学習したことをもとにみんなでどこにつけたらいいか話し合っつけてるようにしてきた。交流については、話型を用いてペアやグループで行ってきた。まだ、型通りの交流の段階であるが、自分の考えや感想を進んで言おうとする姿が多くみられるようになってきた。

ワークテストなどでは、登場人物の行動や気持ちなどは大体読み取れるようになってきた。しかし、吹き出しに書いた言葉等をみると、まだ豊かに想像して読む力は十分とはいえない。そのため、語彙を増やすために語彙集を利用したり、日常の読書に力を入れたりしているところである。

(2) 教材について

この単元は、学習指導要領第1・2学年の「読むこと」の内容「ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること」「ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと」「オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと」を受けて設定した。

「くじらぐも」は、自分達と同じ1年生が大空で活躍する内容で、短くわかりやすい会話文で、音読するのが心地よく、想像することを楽しめる教材である。この物語は、起承転結がはっきりしており、想像の世界に浸る楽しさを素直に味わうことができる。また、音読や動作化を取り入れながら登場人物の行動をとらえさせ、自分の経験と結びつけて言葉や気持ちを考えさせることで物語の登場人物に同化し、想像をひろげながら読むことができる。こうした点から、音読劇として扱うのに適した教材である。

(3) 指導にあたって

この単元の言語活動の柱は、「くじらぐも」を豊かに読むために、音読劇を取り入れるということである。そのために、くじらぐもと子ども達との出会いや、やりとりなどを動作化させたり、吹き出しに書かせたりしてイメージ化できるようにさせたい。

単元の導入では、1学期教材「大きなかぶ」で行ったように劇化するという見通しをもたせる。

今までは、さし絵や文章からの読み取りが多かったが、ふかめる段階では、ペアで動作化させる時に、自分の生活経験なども入れて考えたり、登場人物の言葉や気持ちを考えたりする時は、自分の言葉や考えを付け足させたりしていきたい。交流する時は、自分の思いを伝えることは大切だが、友達の考えを共感的に聞いて受け止められるようにしていきたい。ひろげる段階では、学習したことを生かして、進んでまえさわ苑のお年寄りに喜んでもらえるように、想像をしながら読み取ったことを音読劇に表して発表できるようにさせたい。最後に、同一作者の中川李枝子の「ぐりとぐらとくるりくら」を読み聞かせをし、好きな場面を選び音読記号も使いながら音読練習をさせ、学習したことを活用させたい。

4 単元の目標と仮説との関わり

(1) 目標

登場人物の様子などを想像したり、声に出して読んだりして、物語を楽しむ。

[関心・意欲・態度]

音読や動作化を通して、場面の様子や登場人物の行動を想像しながら読み取ることができる。

[読むこと(1)ウ]

文の中における主語と述語との関係に注意して読むことができる。

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(カ)]

(2) 研究仮説との関わり

手立て1との関わり

<考える力>本時との関わり

- ・登場人物の行動や会話にサイドラインを引くことで、行動の順序や話の大体を理解することができ、吹き出しに登場人物の言葉を想像して書くことで、場面の様子や気持ちなど想像を広げながら読むことができるであろう。(能力系統表2と9)

<交流する力>

- ・吹き出しに書く前に、ペアで言った言葉を考えさせたり、動作化させたりし、また、お互いに質問し合ったりすることで、伝え合う力がつくだろう。

手立て2との関わり

<単元構想>

- ・「くじらぐもの音読劇」という言語活動を通して、場面の様子や登場人物の行動や気持ちを想像を広げながら読む力を育てる。「ふかめる」段階で、ペアで、くじらぐもや子ども達の行動や気持ちを想像して言葉を考えたり、動作化したりすることで、表現するという学習に取り組む。「ひろげる」段階で、既習内容を活用することで、目標が達成されるだろう。交流の場面では、「くじらぐものげきをしたい」という目的意識と「お年寄りの人に喜んでもらいたい」という相手意識をもたせることで、進んで伝えようとする意欲が高まるであろう。

5 単元の評価規準

| 国語への関心・意欲・態度 | 読む能力 | 言語についての知識・理解・技能 |
|--|--|---|
| ・進んで文章を読み、読み取ったことを音読や動作化等で表し、物語を楽しもうとしている。 | ・場面の様子や登場人物の行動や気持ちを、文章やさし絵から想像を広げながら読んでいる。 | ・語や文としてのまとまりや内容、声の大きさなどを考えて、声に出して読んでいる。 |

6 単元指導計画と評価計画

| 段階 | 時 | 本時の目標 | 具体的評価規準 ・支援を要する児童への手立て |
|------|-----------------------------|---|--|
| みとおす | 1 | ・中川李枝子の本の読み聞かせを聞き、読んでみようという意欲をもつことができる。 (並行読書をしていく。) | 中川李枝子の本に関心をもち、読もうとしている。(様子) ・さし絵なども見せ、興味をもてそうなものを勧める。 |
| | 2 | ・「くじらぐも」の範読を聞き、感想をもち学習課題を立てることができる。 ・どんな音読劇を、誰に聞かせたいか話し合い、単元の計画を立てることができる。 | 学習の見通しをもち、進んで学習をしようとしている。(ワークシート・発表) ・課題をはっきりつかませる。 |
| ふかめる | 3 | ・物語の大体の内容をつかむ。 | 登場人物や場面毎のできごとや誰の会話かなどをつかんでいる。 (ワークシート・発言) ・さし絵を見ながら、サイドラインを引かせる。 |
| | 4 | ・くじらぐもとの出会いを読み取ることができる。 | くじらぐもと子ども達の様子や気持ちを読み取り、音読記号をつけたり音読や動作化で表現しようとしていたりしている。 (ワークシート・発言・様子) ・友達の発表を聞き、くじらぐもや子ども達の様子や気持ちを読み取らせ、音読や動作化で表現させる。 |
| | 5 | ・くじらぐもに飛び乗ろうとする様子を読み取ることができる。 | |
| | 6 (本時) | ・空を旅するくじらぐもと子ども達の様子を想像することができる。 | |
| 7 | ・くじらぐもと別れるときの様子を読み取ることができる。 | | |
| ひろげる | 8 | ・役割分担をして、せりふや動作をしてくじらぐもの劇の練習をすることができる。 (まえさわ苑の人達に音読劇を見せるのは、生活科の時間で行く。) | 読み取ったことを生かして音読劇で表現しようとしている。(様子) ・自信をもってできるように音読記号をつけさせる。 |
| | 9 | | |
| | 10 | ・音読劇の振り返りをするすることができる。 | |
| | 11 ・ 12 | ・「ぐりとぐらとくるりくら」の読み聞かせを聞き、好きな場面を音読し、感想をもつことができる。 | |

7 本時の指導

(1) 目標

- ・くじらぐもに乗って子ども達がどんな旅をしたか想像しながら読むことができる。

(2) 展開


| 段階 | ・学習活動 主発問 | ・期待する反応 教師の支援 | 評価・準備物 |
|---------------|---|---|---|
| つかむ (5分) | <ul style="list-style-type: none"> ・前時の場面を役割音読して、振り返る。 ・本時の課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・くじらぐもにのってたびする子どもたちはどんなはなしをしているかかんがえよう。 </div> | <ul style="list-style-type: none"> ・役割音読させる。 ・前時の場面を想起する。劇をして、まえさわ苑の人達に見せるということを確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・おめん ・紙板書 ・くじらぐもの絵 ・子どもや先生の絵 |
| ふかめる (35分) | <ul style="list-style-type: none"> ・音読する。 くじらぐもにのったつもりで読みましょう。 ・空から見えた物を考える。 空からどんなものがどんな風に見えたでしょう。 ・交流する。 ペアで、子ども達は、雲の上でどんなことを話したか、雲に乗ったつもりで言ってみましょう。聞いている人は、友達が言った言葉につなげて話してみましょう。 ・吹き出しに書き、全体で交流する。 話をしたことを吹き出しに書きましょう。 みんなはどんな気持ちで旅をしたのか考えましょう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・指名音読させ、どんなことを話したか考えさせながら聞かせる。 「うみのほうへ、むらのほうへ、まちのほうへ。」の文章やさし絵から見えたと思う物を発表させる。 ・船が小さく見える。 ・家が豆粒みたいに見える。 ・遠くの山の方まで見える。 ・電車がおもちゃみたいに見える。 お互いに動作化しながら、会話をさせる。 ・家がブロックみたいに小さく見えるね。 ・そうだね。家や車がおもちゃみたいだね。 ・あっちには船も見えるよ。 ・すごいね。こんなに見えてわくわくするね。 ・みんなでくじらぐもさんに乗れてよかったね。 ・歌を歌ったらもっと楽しそうだね。 各自の吹き出しを黒板に貼り交流しやすくする。 ・11ページの1, 2行めに「みんなは、うたをうたいました。」とあるから、わくわくして、歌を歌いたいくらい楽しい気持ちだと思います。 | <ul style="list-style-type: none"> ・海や町の絵 ・椅子 具体の評価規準 ・文章やさし絵から、楽しい気持ちになっていることが分かるように自分の言葉で表現している。 (発言・動作化・感想) 支援を要する児童への手立て ・さし絵から考えさせる。 ・吹き出し |

| | | | |
|----------------|--|---|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> 音読記号をつけて音読する。強く元気に読んだ方がいいところはどこでしょう。 | <p>全体で確認してから、音読記号で意識付けさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「みんなは、うたをうたいました。」を元気に読みます。 | |
| <p>まとめ(5分)</p> | <p>今日の学習の振り返りをしましょう。</p> | <p>簡単に今日勉強して分かったことを書かせる。</p> <p>次時は、別れる場面をやることを確認させる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ワークシート |

8 板書計画

くじらぐも
かだい

くじらぐもにのってたびすることまたは、
どんなはなしをしているかかんがえよう。



いえがブロッ
クみたいにな
いさくみえる
よ

おもちゃ
み
たいだね

うみのほうへ・・・ふねがちいさくみえる
むらのほうへ・・・いえがまめつぶみたい
まちのほうへ・・・でん車がおもちゃみたい

みんなは、うたをうたいました。

わくわくする
とてもたのしい